

## Ⅲ 連携協力による研修についての考察

---

### 1 本研修で開発した関係機関との連携プログラムについて

授業時間は限られている。先人が長きにわたって継承してきた「伝統・文化」を、容易に授業で取りあげることができるように、短時間で、系統立てて、より効果的に学ぶことができるカリキュラムを関西舞台芸術研究所研修開発グループと連携することによって開発することができた。

また、学校の事情は多様であり、アーティスト側の必要とする環境もまた多様である。それぞれの多様性を効率的にコーディネートすることによってはじめて、実際の授業にスムーズに取り入れることができる。日時や授業内容および進め方、そして実施前後の効果測定およびその分析を行うことで、よりよいカリキュラムの作成をめざすことができる。継続的に実施することにおいても、コーディネーターの果たす役割は大きい。

### 2 関西舞台芸術研究所研修開発グループの取り組みについて

同研究所がおこなってきた「感動の伝道師」事業は、子どもたちの心豊かな感性を育むと共に、「伝統・文化」の裾野拡大を図ることを目的として、「伝統・文化」のプロのアーティストを講師として学校へ派遣し、体験型授業を実施するものである。

この事業の目的は子どもたちが国際人として成長していくために、アイデンティティの根幹となるべき「伝統や文化」に関する教育を通じて、「伝統・文化を知り、伝統・文化に誇りを持ち、伝統・文化を語れる」子どもたちを育成していくことにある。「伝統・文化」の体験活動を通して、①伝統や文化を愛好する心情、②自己肯定感、③表現力・発信力、④コミュニケーション力、⑤新しい文化を創造する力、⑥異文化を理解しようとする姿勢・態度、を子どもたちに培うことによって、子どもたちの豊かな感性や想像力を育てると共に、自国への理解と尊敬を深め、そのことが国際社会の中で互いの文化や歴史を認め合うことや、真の意味での国際人の育成にもつながるのである。

### 3 連携の実績及び成果

#### (1) 関西舞台芸術研究所研修開発グループの人材・手法を研修で活用

「伝統・文化」に関する専門の情報を熟知していることや、これまでの学校におけるワークショップ実施実績を活かし、人材および手法を、研修で活用した。

#### (2) 実証研修における連携

より効果的な研修内容を連携して作成し、実証研修を実施した。

#### (3) 関西舞台芸術研究所研修開発グループの効果測定システムを活用

「感動の伝道師」事業での実績を元に、本事業の趣旨に合うように効果測定システムを連携して開発し、活用した。

#### (4) 研修の成果物における連携

##### ・研修教材資料集作成における連携協力

より効果的な研修教材資料を、連携協力して作成した。

##### ・報告書作成における連携協力

研修の実施運営を連携して行い、また記録を取って、報告書を連携協力して作成した。

##### ・ホームページ作成における連携協力

学校にて実施可能なカリキュラムの紹介として、ホームページを連携して作成した。

## 4 連携によるメリット

### (1) ワークショップ（体験型授業）の意義

関西舞台芸術研究所研修開発グループは文化に通じた次世代の育成を図るため、多感な成長期にある児童・生徒を対象に、第一線で活躍する芸術家・実演家・アスリート等を講師に招き、芸術・文化を授業に組み入れたワークショップ（体験型授業）を実施してきた。（実施例：伝統芸能／書道／美術／ミュージック／舞踊／大阪文学／ドラマテクニク／食文化／スポーツなど）

本年度は日本の伝統・文化に特化し、芸術家や実演家との出会いを通じて、児童・生徒たちが伝統や文化に親しみをもちつつ、その良さを体感することに焦点を当てた。子どもたちの感性や想像力を豊かにし、日本の伝統文化の継承・発展とともに、自国への理解と尊敬を深め、国際社会において互いの文化や歴史を認め合うことのできる真の国際人の育成に資するものとする。

以上の趣旨に基づき、同グループと大阪府教育センターとの情報の共有、および意見・提案の交換など密な連携体制によって、モデルカリキュラムプログラムを開発する。

### (2) 効果的な実施のために

ワークショップを効果的に実施し、よりよい成果をあげるためには、[1]ワークショップを年間の教育カリキュラムの中に的確に組み込む、[2]目的・効果・到達点などを講師と綿密に協議・調整して実施する、[3]事前・事後学習を含めた準備、児童・生徒への動機付けに十分配慮する等、受け入れ側の学校の教職員の理解と認識が要諦となる。そのためには、教職員自身が実際にワークショップを体験し、その効果を実感できる教職員向けワークショップ（平成22年度現在、大阪府教育センターと同開発グループの連携により実施）等への参加が非常に有効である。また、学校でのワークショップを失敗なく実施するには、専門のノウハウをもち、あらゆる事柄に対応・サポートできるコーディネーターを活用することが望ましい。

### (3) コーディネーターの役割

- ・学校の教科にないジャンルとのコラボレーションができ、研修の間口を広げられる。
- ・文化・芸術分野での高い効果が期待でき、他分野に展開する場合には、豊富な人材の中から最適な講師を選ぶことができる。
- ・専門性が高くなると型（準備物や言葉）があるため、打合せがスムーズにできる。
- ・不明な点や困難な事項が生じた際、豊富な経験に基づいてスムーズな対応ができる。
- ・NPO 法人や企業との連携を継続的に行うために必要な金銭面その他の条件に関する話し合いや、直接には伝えにくい事項の交渉役、煩雑な事務処理等を委託できる。

### (4) 今後の協力体制及び活用法

大阪府教育センターと関西舞台芸術研究所研修開発グループの連携により、各学校において「伝統・文化」カリキュラムプログラムが効果的に実施できる環境づくりに取り組む。

また、同センターを通じて教職員研修としてのワークショップ開催はもとより、「芸術文化の多角的発見！」をキーワードに、学校や行政、地域に対してワークショッププランや鑑賞会等を提案し、実施に向けて学校と協力体制をとる。